

2025年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
タイにおける環境問題とその意識調査	Aコース

学生情報	
氏名	川畑 順平
所属学部・研究科	工学部総合工学科応用化学コース分析環境研究室
学年(出発時)	4年

渡航先情報	
渡航先	タイ
渡航先滞在期間	2025年9月1日～2025年9月11日
訪問先機関等	チェンマイ大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容

チェンマイ大学工学部の研究室を訪問し、触媒を利用した水素生成に関する研究について、説明を受ける機会を得ました。実際に使用されている実験装置を間近で見ること、文献で得られる理論的な知識だけでは理解しきれない具体的なイメージを持つことができました。特に、実験の過程で生成された水素をどのように回収し、実際の応用につなげていくのかというプロセスを直接確認できたことは、大変貴重な経験となりました。また、生成した水素を利用して走行するバイクの実物を見学できたことも強く印象に残っています。タイでは日常的にバイクが主要な移動手段として広く利用されており、その社会的背景を踏まえると、水素エネルギーを用いたバイクの普及は、環境負荷の低減と持続可能な交通手段の確立に大きく寄与する可能性を秘めていると感じました。このように、研究の現場を訪れることで、単なる理論学習を超えて、研究が社会に与える影響や実用化の可能性をより具体的に理解でき、自身の学びや今後の研究への関心をさらに深めるきっかけとなりました。次に、タイの現地住民や学生を対象に、環境意識に関するアンケート調査を実施しました。質問内容は、環境問題に対する関心度やリサイクルやプラスチック削減の取り組み状況などです。調査結果としては、多くの人が環境問題について興味は持っているものの、行動には繋がっていない場合が多いことが分かりました。さらに、市場における環境調査として、チェンマイのナイトマーケットや市場を訪問し、プラスチック削減やリサイクルの実態を確認しました。エコバッグやバイオプラスチック製品の普及状況は観察できましたが、依然として使い捨てプラスチックが多く利用されているのが現状でした。

渡航により達成できたこと

今回の渡航を通じて、いくつかの重要な目標を達成することができました。チェンマイ大学工学部で、触媒を用いた水素生成に関する研究を見学し、再生可能エネルギーの技術に直接触れることで、環境問題への理解を一層深めることができました。特に、生成水素をバイクに応用する実験を間近で見ること、クリーンエネルギーの可能性と実用化に向けた課題を実感しました。この経験を通じて、持続可能な社会を実現するために必要な技術や国際的な研究の重要性を学びました。さらに、現地の学生や研究者と積極的に意見交換を行う中で、日本とタイにおけるエネルギー事情や環境政策の違いを知り、国際的な視野を広げることができました。また、言語や文化の壁を乗り越えて交流する過程で、伝える力・聞く力・工夫する力を磨き、どのような状況にも適応できる「生きる力」を培うことができたと感じています。この一連の経験は、単なる知識の習得にとどまらず、国際的な協力や多様な価値観を尊重する姿勢を身につける大きな機会となりました。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航を通じて、いくつかの重要な成果を達成することができました。1つ目は、チェンマイ大学の研究室を訪問し、触媒を用いた水素生成に関する研究内容を学ぶことで、水素生成技術の応用例についてより深く理解できたことです。2つ目は、現地で実施したアンケート調査や市場調査を通じて、タイと日本における環境意識の違いと共通点を把握できたことです。例えば、タイでは、多くの人が環境問題への関心は高い一方で、日常生活における行動への反映が課題であることが分かりました。この点は、日本における状況と共通しており、両国とも「意識から行動への移行」が重要な課題であることを再認識しました。3つ目は、研究室訪問や現地調査の過程で、学生や研究者、現地の方々と積極的に対話を行ったことです。異なる文化や専門分野の人々とのコミュニケーションを通じて、知識だけでなく、国際的な視野や協働の重要性を学ぶことができました。これらの経験は、今後の研究活動や社会での実践において、大きな糧となると考えています。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の経験を通じて得られた知識や学びは、今後の学修およびキャリア形成において大きな意義を持つと考えています。まず、触媒を用いた水素生成技術について学んだことは、再生可能エネルギーや脱炭素社会の実現に向けた技術開発に関する理解を深めるものであり、今後の専門分野の研究において基盤となります。特に、実験設備や研究プロセスを直接見学できたことは、座学では得られない実践的な視点を養う機会となりました。また、タイと日本における環境意識の違いや共通点を調査・分析した経験は、国際的な視点から環境問題を考察する力を高めることにつながります。さらに、今回の渡航では、現地の研究者や学生との対話を通じてコミュニケーション能力を高めることができました。グローバル化が進む現代社会において、異なる文化や価値観を持つ人々と協働する力は、どの分野においても不可欠です。将来的には、この経験を活かして、環境・エネルギー分野における国際的な連携プロジェクトや研究活動に積極的に参加し、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

アドバイスとしては、まず目的を明確にして渡航に臨むことです。自分が現地で何を学びたいのか、どのような経験を得たいのかを事前に整理しておくことで、限られた時間をうまく活用できます。また、積極的に行動することを心がけると良いと思います。現地の人や学生に対して分からないことや興味のあることを、遠慮せずに質問することで自分の理解が深まるだけでなく、新たな視点や人脈を得るきっかけになります。次に異文化への柔軟な対応力があると良いです。現地の生活習慣や価値観など日本とは異なる環境に触れる中で、戸惑うこともありますが、そうした違いを前向きに受け止めていくことで、多様性を尊重する姿勢が身に付きます。最後に記録を残しておくことです。渡航期間中に感じたことや体験したことをメモや写真として残しておく、帰国後の報告書や報告会の資料作りに役立ちます。この事業は専門的な知識だけでなく、国際的視野やコミュニケーション能力を高める良い機会です。積極的に挑戦することで貴重な経験と自分自身の成長が得られるはずです。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	91,210円
海外旅行保険	7,079円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	
宿泊費	54,931円
光熱費	
食費	19,552円
その他	25,625円
合計	198,397円